

報道関係者 各位

令和5年6月30日

【照会先】

新潟労働局 労働基準部 健康安全課

課長 市川 尚

産業安全専門官 鈴木 政昭

TEL : 025-288-3505

新潟県内における令和4年の労働災害発生状況を公表します

～死傷者数は依然として減少せず～

新潟労働局（局長 西岡邦昭）では、新潟県内における令和4年の労働災害の発生状況を取りまとめましたので公表します。

令和4年1月から12月までの新型コロナウイルス感染症のり患者を除いた労働災害による死亡者数（以下「死亡者数」という。）は17人で前年同数となり、休業4日以上死傷者数（以下「死傷者数」という。）は2,630人で前年より210人減少しましたが、いずれも過去10年で4番目の多さとなりました。

また、新型コロナウイルス感染症のり患による死亡者数は2人（前年比1人増）、死傷者数は2,219人（前年比1,855人増）となりました。

※ 新型コロナウイルス感染症のり患者を含めた労働災害による死亡者数は19人（前年比1人増）、休業4日以上死傷者数は4,849人（前年比1,645人増）。

労働災害を減少させるために重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「第14次労働災害防止推進計画」（以下「14次防」という。）（令和5年度～令和9年度）では、令和9年までに令和4年比で「建設業において死亡災害を15%以上」、「製造業における機械によるはさまれ・巻き込まれの死傷者数を5%以上、陸上貨物運送事業の死傷者数を5%以上」減少させること等を目標としています。

計画の初年度となる令和5年度は、目標の達成に向け、労働者の作業行動に起因する労働災害対策、高年齢労働者、多様な働き方への対応や外国人労働者等の労働災害防止対策、道路貨物運送業・建設業・製造業への対策、労働者の健康確保対策、化学物質等による健康障害防止対策などに取り組んでいきます。

また、全国安全週間（7月1日～7日）とその準備月間（6月1日～30日）では、事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を働きかけます。

（概要は次ページに掲載）

全国の発生状況はコチラ ⇒
（厚生労働省 HP）



<https://www.mhlw.go.jp/st>

【令和4年労働災害発生状況の概要】

1 死亡者数 ※2

- 死亡者数は17人と、平成30年以降15人以上で推移している。
- 業種別では、製造業が8人（前年比4人・100.0%増）、建設業が4人（前年比2人・100.0%増）、道路貨物運送業が2人（前年比1人・100.0%増）となった。
- 事故の型別では、「火災」が6人（前年比5人・500.0%増）、「墜落・転落」が3人（前年比3人・50.0%減）、「崩壊・倒壊」が3人（前年比3人増）となっているほか、「はさまれ・巻き込まれ」及び「感電」がそれぞれ2人となった。
- 年齢別では、50歳以上の労働者が10人となり、全体の約6割を占めている。

2 死傷者数 ※3

- 死傷者数は2,630人となり、減少に転じたが過去10年で4番目の多さとなった。
- 事故の型別では、
 - 「転倒」739人（前年比113人・13.3%減）、
 - 「墜落・転落」424人（前年比50人・10.5%減）、
 - 「はさまれ・巻き込まれ」336人（22人・6.1%減）、
 - 「動作の反動・無理な動作」（腰痛等）322人（25人・7.2%減）、
 - 「切れ・こすれ」204人（4人・1.9%減）、
 - 「飛来・落下」137人（2人1.4%減）
 - 「激突」133人（18人・15.7%増）などとなっている。
- 年齢別では、60歳以上が731人（前年比22人・2.9%減）、50歳～59歳が711人（前年比30人・4.0%減）となっており、それぞれ死傷者全体の約4分の1を占めている。

※1 死亡者数及び死傷者数は、いずれも新型コロナウイルス感染症のり患者を除いたもの。

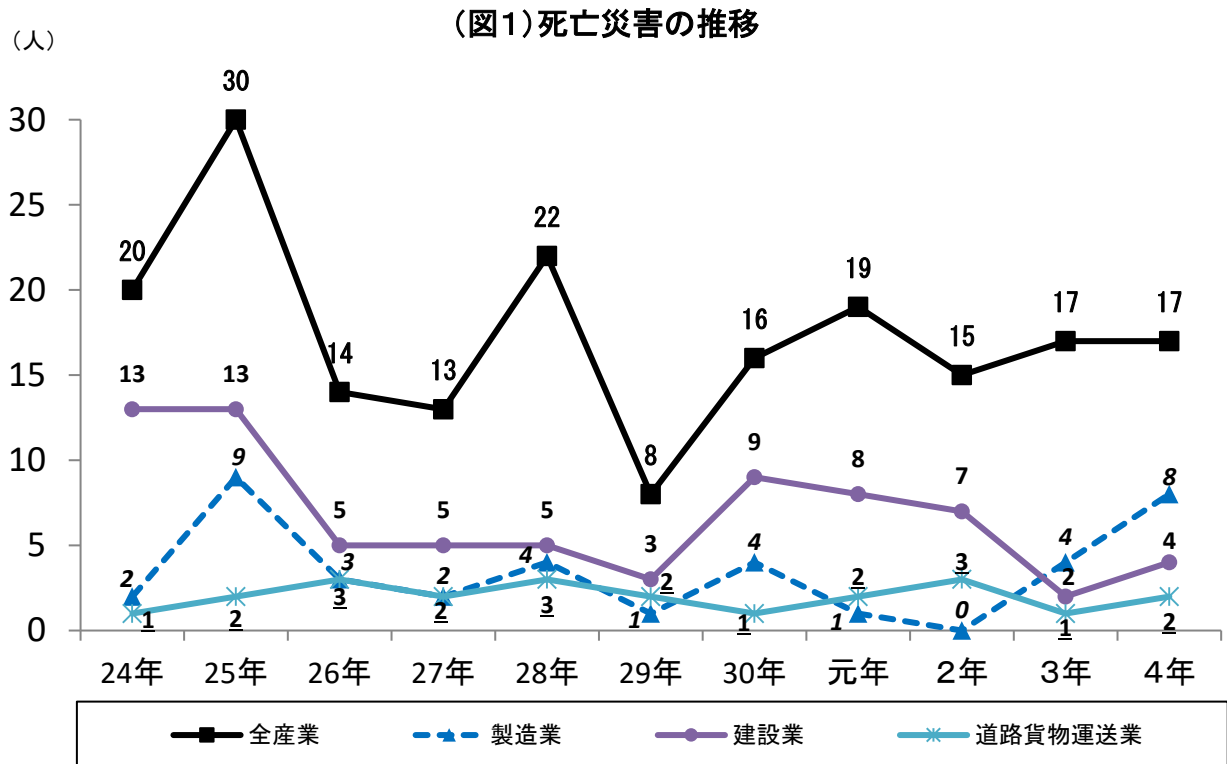
※2 死亡災害報告をもとに、死亡者数を集計。

※3 事業者から提出される労働者死傷病報告をもとに、休業4日以上死傷者数を集計。なお、これらの件数に通勤中に発生した災害の件数は含まない。

—令和4年 労働災害発生状況—

1 死亡災害について

(1) 令和4年(令和4年1月から12月まで)の労働災害での死亡者数は17人で、前年と比較して同数となりました(図1)。



(2) 業種別にみると、製造業が8人(47.1%)と最も多く、次いで、建設業が4人、道路貨物運送業2人などとなっています(表1)。

(表1)業種別死亡災害発生状況

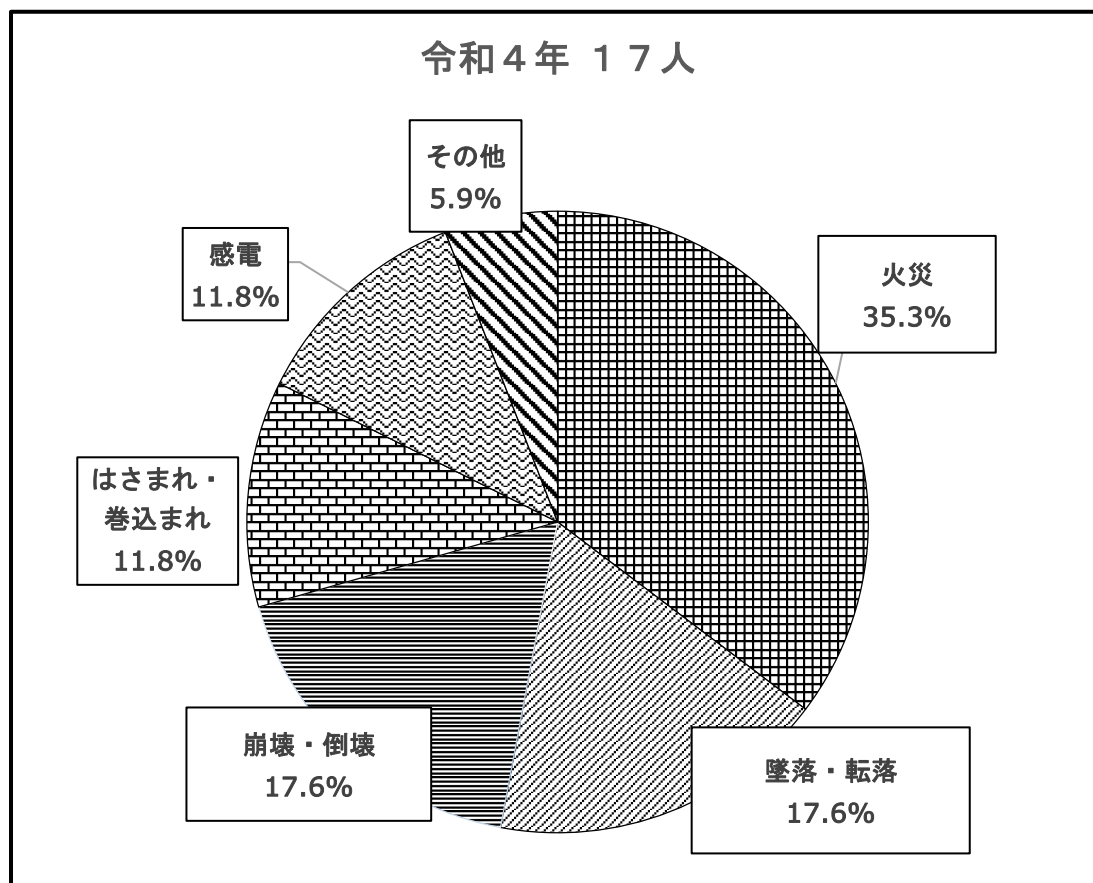
	製造業	建設業	道路貨物運送事業	農林業	鉱業	その他の業種	計
令和4年	8	4	2	1	0	2	17
令和3年	4	2	1	1	2	7	17

- (3) 事故の型別にみると「火災」で6人、「墜落・転落」及び「崩壊・倒壊」でそれぞれ3人、「はさまれ・巻き込まれ」及び「感電」でそれぞれ2人となっています(表2、図2)。

(表2)事故型別死亡災害発生状況

事故の型別	令和4年	令和3年	前年比(人)
火災	6	1	+5
墜落・転落	3	6	-3
崩壊・倒壊	3	0	+3
はさまれ・巻き込まれ	2	4	-2
感電	2	1	+1
交通事故(道路)	0	2	-2
おぼれ	0	2	-2
その他	1	1	±0
合計	17	17	±0

(図2)事故型別死亡災害発生の割合

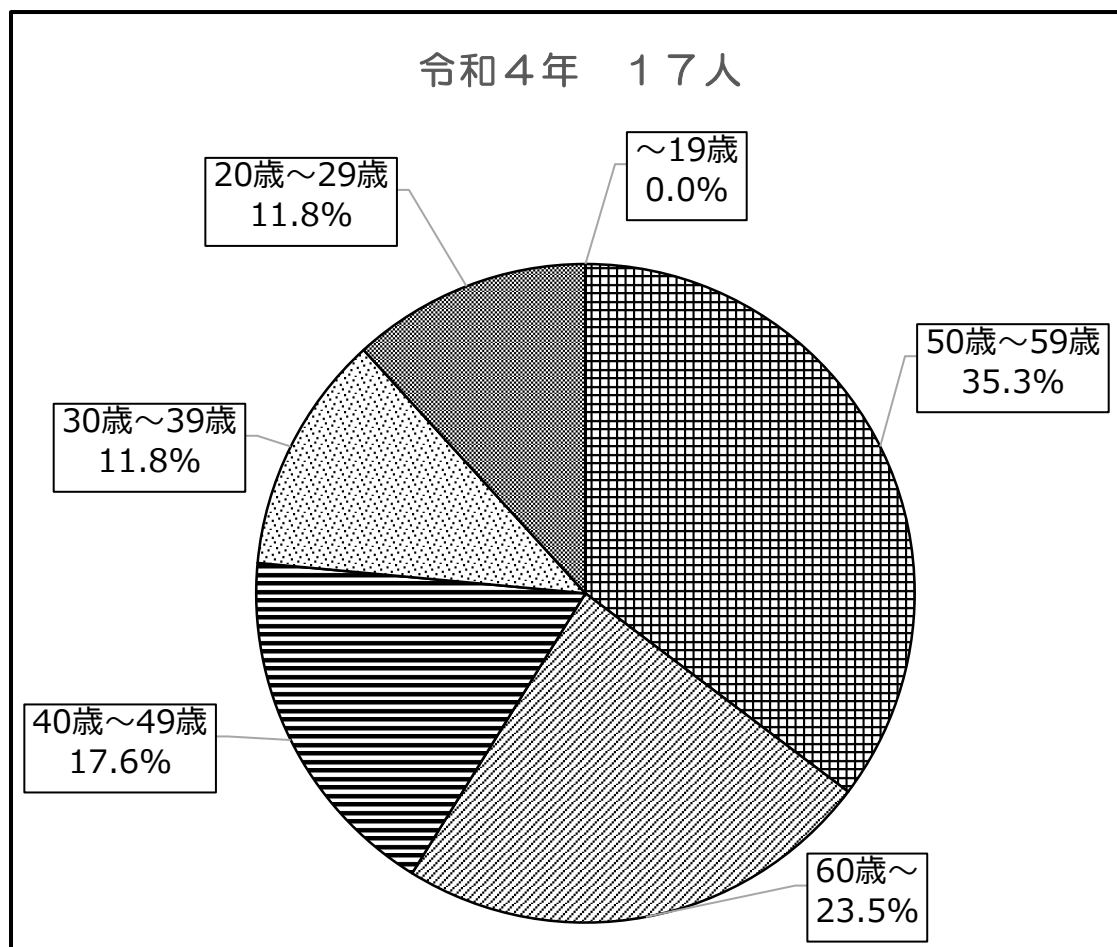


(4) 年齢別にみると、50歳～59歳が6人、60歳以上が4人、40歳～49歳が3人、30歳～39歳及び20歳～29歳がそれぞれ2人となっています(表3、図3)。

(表3)年齢別死亡災害発生状況

年齢別	令和4年	令和3年	前年比(人)
～19歳	0	0	±0
20歳～29歳	2	0	+2
30歳～39歳	2	2	±0
40歳～49歳	3	5	-2
50歳～59歳	6	1	+5
60歳～	4	9	-5
合計	17	17	±0

(図3)年齢別死亡災害発生の割合



令和4年 業種別死亡災害発生状況

○製造業

No.	発生日	発生状況	事故の型	起因物
1	2月	米菓製造棟の焼き工程付近から出火し、清掃作業を行っていた4人と、もち生地製造作業を行っていた2人、計6人が逃げ遅れて死亡した。 [70歳代・女性]、[70歳代・女性]、[70歳代・女性]、[60歳代・女性]、[20歳代・男性]、[20歳代・男性]	火災	炉・窯
2	4月	閉止板(耐圧試験に使用する円形のふた板、重さ1.2トン)をフォークリフトで保管場所へ移動させていた時、別の作業をしていた作業員が作業中のフォークリフトの前方に立ち入り、積荷の閉止板と工場建屋との間に挟まれた。 [50歳代・男性]	はさまれ・巻き込まれ	フォークリフト
3	10月	最大積載量4トンの貨物自動車の運転席上部に設置してあるルーフキャリアの上に乗し、荷台方向に向けて荷物(藁)にかけていたシートのゴムを両手で引っ張る作業をしていたところ、シートとゴムを繋結している部分がちぎれ、引っ張っていた反動で高さ約2.3メートルから地面まで墜落して後頭部を打撲した。 [40歳代・男性]	墜落・転落	トラック

○建設業

No.	発生日	発生状況	事故の型	起因物
1	1月	住宅屋根の雪下ろし作業中、急に倒れ込み、突然死で死亡した。 [40歳代・男性]	その他	起因物なし
2	2月	仮設トンネル(横坑)の閉塞を行うために生コンを打設していたところ、組立てられた型枠が倒壊し、型枠の下敷きとなり死亡した。 [50歳代・男性]	崩壊・倒壊	その他の仮設物・建築物・構築物
3	5月	変圧器塔が通電していることを認識せずに、被災者は保護帽を脱いで変圧器塔内部の接地端子の形状を覗き込んで確認しようと頭部を入れたところ、充電された変圧器塔内部に露出する高圧ケーブル接続端子部に頭部が接触し感電して死亡した。 [30歳代・男性]	感電	電力設備
4	9月	高所作業車を使用した街路樹(高さ7.5メートル)の剪定作業を終え、地上に降りるため高所作業車のブームの角度を上げながら縮めていたところ、高さ12~13メートルの箇所にある高圧電線に接触し感電した。 [40歳代・男性]	感電	高所作業車

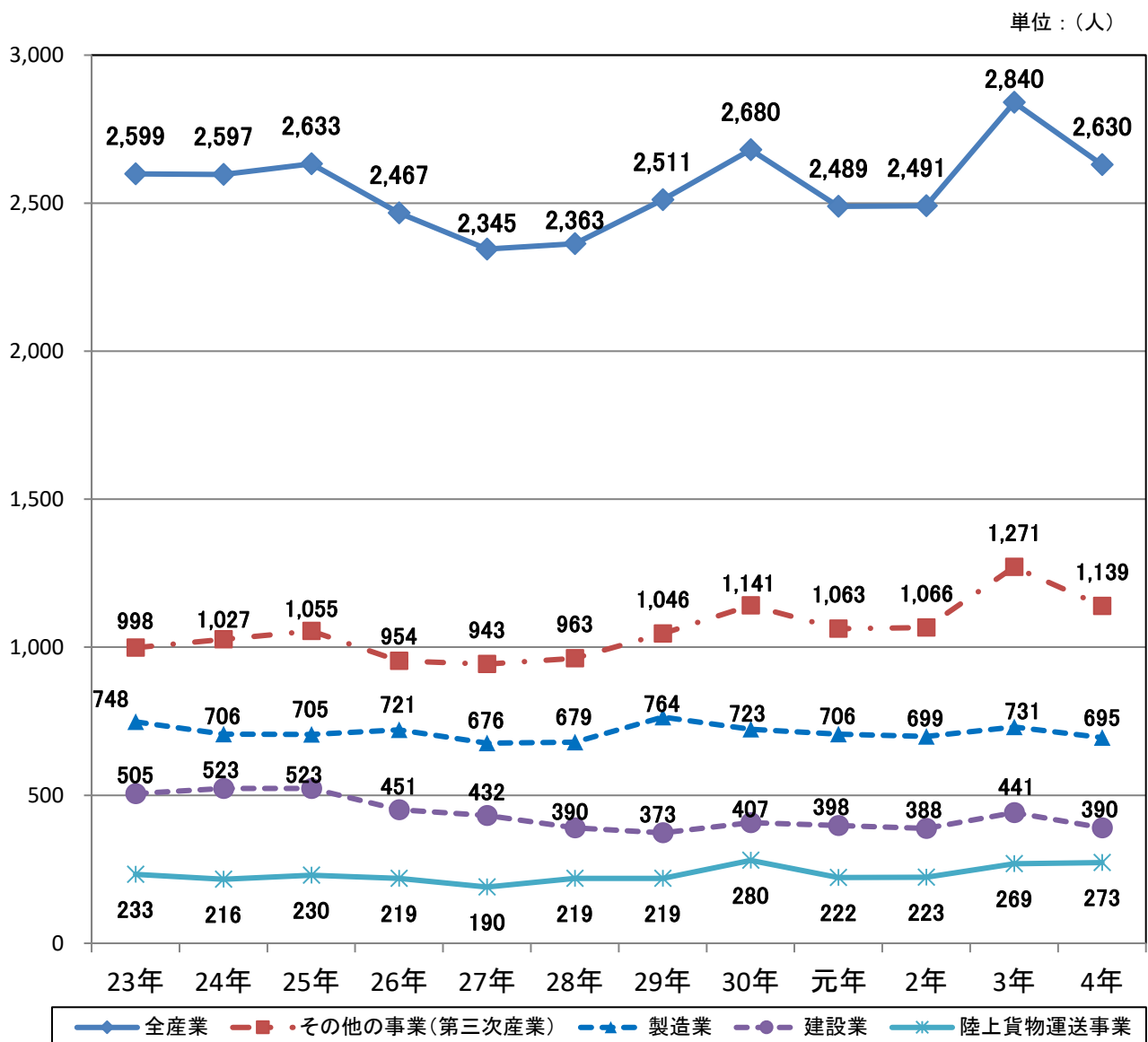
○その他(製造・建設以外)

No.	発生日	発生状況	事故の型	起因物
1	1月	大型トラック(13トンウイング車)を運転し、高速道路走行中にサービスエリア駐車場にトラックを止め、高さ3.7メートルのトラック荷台屋根の上で、雪を取り除く作業を行い、トラック後部から降りようとして転落した。 [50歳代・男性]	墜落・転落	トラック
2	6月	グリーン芝生の転圧作業をグリーン用ローラー車(以下「車両」という。)に乗車してグリーン周りを移動中、車両が斜面で滑り始めたため、被災者は車両の運転席から投げ出され、横転した車両の下敷きとなった。 [50歳代・男性]	墜落・転落	その他の一般動力機械
3	6月	プレスされた古紙の塊(1つ当たり縦102cm×横118cm×奥行172cm 重量1.09t)(以下「古紙」と記す)を場外に搬出するための準備作業中、古紙にまぎれた異物を発見し1段積みされた古紙上のり、この除去を行っていた際、付近に3段積みされた古紙の上部2段が崩壊し下敷きとなり死亡した。 [50歳代・男性]	崩壊・倒壊	荷姿のもの
4	11月	自社のトレーラーの荷台にドラグショベルを積み込む作業において、バケットを荷台に乗せて機体の片側端部を浮かせて荷台に乗せ、上部旋回体を反転させてバケットを地面につけて機体の反対側端部を浮かせる方法によって積み込もうとしていたところ、ドラグショベルがバランスを崩して転倒し、バケットの下敷きとなって死亡した。 [50歳代・男性]	はさまれ・巻き込まれ	掘削用機械
5	11月	ごみ処理ピット前のプラットホームにあった家庭ごみをホイールローダーでピット内に投入していたところ、投入口の観音扉が自然に閉まってきたため、ホイールローダーから降車して人力で押し戻そうとした際に扉が外れ、倒れてきた扉の下敷きとなった。 [30歳代・男性]	崩壊・倒壊	建築物・構築物

2 令和4年における休業4日以上死傷災害発生状況

- (1) 令和4年(令和4年1月から12月まで)の労働災害による休業4日以上死傷者数は2,630人で、前年と比較して210人(7.4%)の減少となりました(図4)。
- (2) 業種別にみると、その他の事業(第三次産業)が1,139人(43.3%)と最も多くを占め、次いで、製造業が695人(26.4%)、建設業が390人(14.8%)、陸上貨物運送事業が273人(10.4%)となっています(図4)。

(図4) 休業4日以上死傷災害の推移



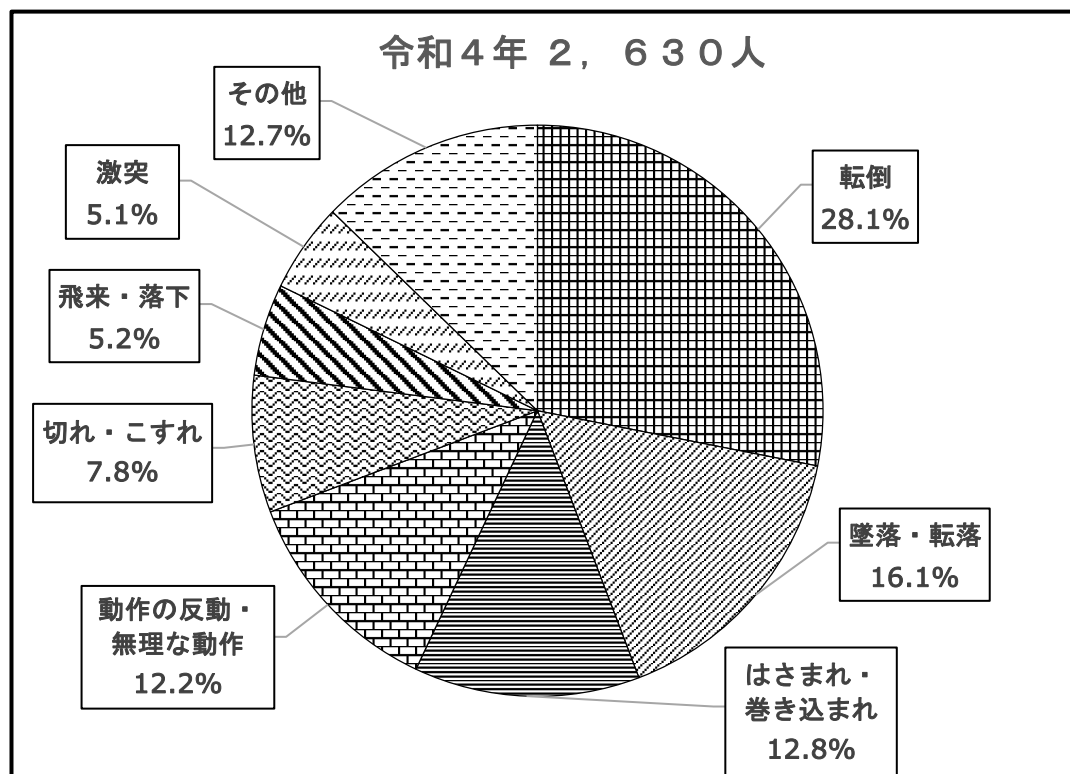
- (3) 事故の型別にみると、「転倒」の739人が最も多く全体の28.1%を占めています。次いで「墜落・転落」が424人(16.1%)、「はさまれ・巻き込まれ」が336人(12.8%)、「動作の反動・無理な動作」が322人(12.2%)となっています(表4、図5)。

(表4)主な事故型別死傷災害発生状況

	令和4年	令和3年	前年比(人)
全産業	2,630	2,840	-210

事故の型別	令和4年	令和3年	前年比(人)
転倒	739	852	-113
墜落・転落	424	474	-50
はさまれ・巻き込まれ	336	358	-22
動作の反動・無理な動作	322	347	-25
切れ・こすれ	204	208	-4
飛来・落下	137	139	-2
激突	133	115	+18
その他	335	347	-12

(図5)事故型別死傷災害発生の割合



(4) 年齢別にみると、60歳以上が731人(前年753人)と最も多く27.8%を占め、次いで50歳～59歳が711人(前年741人)で27.0%を占めています。(表5、図6)。

(表5)年齢別死傷災害発生状況

年齢別	令和4年	令和3年	前年比(人)
～19歳	35	43	-8
20歳～29歳	259	323	-64
30歳～39歳	356	388	-32
40歳～49歳	538	592	-54
50歳～59歳	711	741	-30
60歳～	731	753	-22
合計	2,630	2,840	-210

(図6)年齢別死傷災害発生の割合

